

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170202873		
法人名	有限会社 丸モ水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5 (電話) 011-785-6222		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】 ( 20年12月10日事業所記入 )

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 7日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8.0人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	水光熱費20,000円 暖房費(11~3月)10,000円
敷金	有 ( 96,000円 ) ・ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( )	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要 ( 12月 10日現在 )

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	71歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック、北海道脳神経外科記念病院、フォース歯科、恒心堂整形外科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、テナントビル改造施設のために、若干利用しにくい面もあるが、これを補う工夫と職員の利用者をいたわり、ともに支え合う意識が、施設の欠点を感じさせないホームに仕上がっている。運営法人は、介護を要する高齢者支援の想いから、利用者の重度化や終末期までサービスを続ける方針を持ち、医療機関との連携も十分な体制にある。利用者の介護計画も、ADLシートなど独自の様式を考案して、最善のサービスを行なうよう努力している。また、ホームのレベルアップを目指して、ほかのグループホームと相互訪問など積極的に交流を行なっており、今後の成長を期待したいホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された運営理念の明文化など、それぞれの項目を検討しながら改善に取り組んでいる。緊急時の対応など未達成項目は、今後の改善に向けての取り組みを計画している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は職員全員に渡され、各自が記入したものを管理者がまとめて作成している。評価結果は、ミーティングで検討しながら、内容に応じて順次改善を図り、利用者へのサービスに反映させるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、同じ建物内にあるほかのグループホームと共同で隔月毎に開催している。会議は利用者や外食をともにする機会も設け、ホーム運営状況や評価への取り組み状況の報告と参加者からの意見や要望などについて、話し合いをしている。会議内容は、ミーティングで報告して職員の共有としながら、ホーム運営や利用者へのサービスに活かすようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームは、苦情箱設置や苦情処理体制を整備し、家族からの意見や要望はホーム来訪時に職員ができるだけ把握して連絡ノートに記入している。要望などがある時は、申し送りやミーティングで検討し、内容に応じて随時改善に向けて取り組み、家族の不安を無くすように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と職員はともに地域の札幌祭りやレクリエーションなどの行事に参加し、近くの小学生が学習で訪れたり、多数のボランティアを受け入れるなど、地域との交流が進行中である。町内会や敬老会などにはまだ未加入であるが、今後加入し、地域との連携をさらに深めようとしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念に、住み慣れた地域で安心して暮らすための支援を明文化し、さらにユニット独自の理念を持っている。職員は、この理念に基づいて地域住民とともに支え合う関係を大事にしながら、利用者へのサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時の勉強会で、理念に基づいたケアサービスのあり方を話し合い、利用者本位の対応を心がけるよう、留意しながら取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、地域行事の札幌祭りやレクリエーションに参加し、近くの小学生が学習に訪れるなど、地域との交流に努めている。今後も地域の一員として各種行事への積極的参加を予定している。	○	地域との交流を深めるよう努めているが、必ずしも十分な状態ではない。このため、町内会加入や町内会活動への協力とホーム行事へ周辺住民の方々を招待するなど、地域とのさらなる連携強化を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の検討は、評価表を職員に渡して各自記入し、管理者がまとめて作成している。自己評価の結果、課題となった項目はミーティングなどで改善対策を協議しながら、ケアサービスに活かすようにしている。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、同じ建物内にあるほかのグループホームと合同で開催している。会議では、ホーム運営状況報告や地域の情報交換、意見・要望などの意見交換があり、会議結果をサービス向上に反映させるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長や管理者は、行政の担当部署を頻りに訪れ、グループホームや介護保険制度や運営上の問題点を相談するなど、行政との連携に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームを訪れた際に、利用者の暮らしぶりを伝えており、来訪が少ない家族へは電話で報告している。さらに、毎月、利用者個人別に多数の写真を載せた「せせらぎ通信」を送付して家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは苦情箱設置や苦情処理体制を整備している。家族からの意見や要望があった時は、連絡ノートに記録し、申し送りやミーティングで協議しながら、改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは複数の職員の離職による入れ替えがあったが、その際には利用者への影響や不安を最小限にするよう根気よく話しかけ、説明するよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームはグループホーム協議会主催などの各種研修に交替で職員を参加させており、内容によっては職員希望の研修受講も可能としている。ホーム内では、研修参加者による勉強会をミーティング時に行ない、職員の共有となるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営法人は、ほかの業者との交流を重視し、管理者会議などでの情報交換以外に、ほかのホームとネットワークを作りながら、勉強会や相互訪問を行ない、サービスの質的向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者及び家族にホームを見学していただき、ホームの雰囲気や職員に利用者が馴染んでいただくよう配慮している。入居当初は、利用者の様子を詳細に記録しながら、馴染みの関係を築くようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を介護する立場ではなく、利用者と一緒に生活をともにする家族の一員としての思いで接している。日常の暮らしでお互いに学びあったり、楽しみごとをともに持ちながら、支え合う関係を大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、困難な場合は、利用者の行動要因を職員間で相談しながら、確認している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、家族との話し合いや医療機関とも相談しながら進めている。介護計画様式も、既存のもの以外にホーム独自のADLシートなど考案して使用し、職員全員で協議しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者の入所時に1ヵ月の計画を作成し、その後3ヵ月毎に定期見直しを実施している。利用者には、健康状態などの変化が生じた時は、随時、利用者、家族や医療機関と相談しながらミーティングで検討し、介護計画を見直している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や外出希望箇所へホームの車両で送迎したり、行事としての食事会や花見会などに出かけている。また、多数のボランティアを受け入れて楽しんでいただくなど、多機能性を活かし支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには24時間対応の協力医療機関があり、隔週毎に往診が行なわれているが、利用者や家族の希望があれば、協力医療機関以外のかかりつけ医受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、利用者の入居に当たり将来の重度化や看取りを想定して受け入れており、重度化や終末期の指針を作成して家族に説明している。利用者の重度化や終末期には、家族や医療機関と緊密な連携を取りながら対応するようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護計画など各種書類は、所定の保管場所へ整理しており、面会簿もファイルに綴じ込む様式で個人情報の取り扱いに注意している。利用者への言葉かけやサービスを行なう時は、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは、日常生活の大まかなスケジュールはあるが、利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、思いや意向を大事にしながら、ゆったりした暮らしが出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は職員が利用者の希望も参考にしながら考え、一緒に食事準備や後片付けをしている。食事中は、職員が同じテーブルで同じ食事をとっており、遅いペースの利用者もせかすことなく、ゆっくりと食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午前と午後に実施しているが、無理強いをせずに利用者の希望やタイミングに合わせて行なっている。衣服の汚れがあった場合は、予定外でもシャワーや入浴の対応をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事準備や後片付け、掃除、洗濯物たたみなどの役割を持ち、カラオケや手芸などの楽しみごともある。各種ボランティアのホーム訪問も多く、踊りや唄などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的に散歩や買物に外出しているが、さらにホームが積極的に実施している月2回の行事での食事会、公園散歩、果樹園への果物狩りなど、外出機会を出来るだけ多く持つよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが入居しているビル1階の入口は、夜間帯に施錠しているが、日中はユニット入口を含めて開放している。ユニット入口にはセンサーがあり、出入りが感知出来るようになっている。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、管理者や職員の交替などの事情で最近では実施していない。職員の人員体制も確立してきたため、今後、実施の予定である。	○	消防署の指導の下、年間2回の避難訓練を地域住民の協力をいただきながら、実施することを期待したい。また、その際に夜間想定訓練も合わせて行なうことも期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を生活記録に記入して把握している。食事献立は、栄養バランスを考慮して職員が作成し、委託看護師が3週毎に検食をしているが、カロリー計算は行っていない。	○	利用者の摂取カロリーを明確に把握するため、カロリー計算を定期的に栄養士に依頼して、算出していただくよう取り組みを期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内部は、テナントビル改造型のため一部見通しが悪いが、鏡の設置やセンサーで欠点を補っている。共有スペースは明るく季節感のある飾りなどで家庭的雰囲気があり、トイレや洗面所なども清潔で使いやすく、利用者は居心地良く過ごしている。	○	建物3階の階段やエレベーターからホーム入口までの廊下が長く、殺風景な感じを与えているため、絵画や季節の飾りなどで、親しみのある雰囲気作りの工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は余裕のある広さがあり、クローゼットや洗面台が設置してある。室内には、利用者が希望する調度品などを自由に持ち込み、室内を好みの飾り付けなどをしながら、ゆったりと暮らしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。